

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	百貨店（販売促進担当） 住宅販売会社（従業員）	・ブランド品を中心に売上が伸びており、徐々にではあるが回復の兆しがみられる。 ・金利が上昇してくれば、駆け込み需要が発生する可能性がある。
	変わらない	商店街（代表者）	・昨年と比べて天候にも恵まれ、季節商品は少し伸びているが、依然として先行き不安が根強く、なかなか本格的な景気回復には至らない。
		商店街（代表者）	・このまま気温の高い日が続けば、まだまだ夏物の勢いもある反面、秋物の出足が遅くなり、総合的には変わらない。
		百貨店（売場主任）	・秋物の動きはまだ分からないが、単価が落ちていることもあり、高額品が動かないと想定される。
		スーパー（店長）	・この暑さで、飲料・アイス・衣料品等の売上は伸びているが、逆にそれ以外の部分を冷静にみると、売上の伸び悩みは依然として続いている。特にお中元の売上をみても厳しさは以前と変わらず、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・猛暑の影響で季節商品の売行きも活発ではあるが、あくまでも一過性の動きである。競合各社の価格訴求型のチラシ合戦は激しさを増しており、客の厳しい購買行動は当面変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・1人当たりの購入額も増加しておらず、景気回復要因が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・気温が高く、温度帯商品であるアイス・飲料水・ビールが出ているが、お菓子・食品等気温に関係ない商品の動きは変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・7月の売上増加は去年のたばこの仮需要の反動と気温の上昇による売上増加であり、根本的に景気は変わっていない。
		衣料品専門店（店長）	・客の話では年金への不安があり、今後も良くはならない。
		住関連専門店（営業担当）	・冷夏で大幅に落ち込んだ前年の売上をベースに、今年の売上をみると、ほぼ前年並みであり、猛暑でありながら、前年度の落ち込みを回復できてない。消費者の購入意欲は依然として低調に推移している。
		観光型ホテル（経営者）	・売店の1人当たり消費単価をみると、道外客は総じて上昇機運にあるが、客数減が厳しい。旅行費用が大型プラズマテレビ等に変わっているという冗談が深刻になりつつある。
		旅行代理店（従業員）	・高単価、高品質の旅行に対する反応は良いが、一方で、海外旅行の伸び率は低下しており、国内の先行申込みの状況が悪くなっている。
		タクシー運転手	・長期的な景気低迷で、出費を抑えるという潜在意識が働いており、タクシー需要の上昇は期待薄である。
	観光名所（職員）	・タクシーの空車が依然として目立っている。	
	その他レジャー施設（職員）	・地元フランチャイズのプロ野球チームの成績次第になる。3位までに入りプレーオフが開催されれば特需に沸く。ペナントレース中でも4位以下に決定すれば消化試合となり、客足は遠のき、物販の売上も見込めない。日程の穴を埋める大型イベントも入りづらい。	
	美容室（経営者）	・客の出費はトータルではほぼ固定化しているようである。	
	やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・気温の上昇に伴い来客数が増加しているが、増加している割には動きが鈍い。また、公共工事が年度前半で予算を消化しているという情報が入っているので、今後に関してはより厳しくなると考えている。
		家電量販店（地区統括部長）	・オリンピック景気、猛暑による夏場の好調の反動が現れる。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）		・原油の先物価格が高騰していることから、小売価格が上昇し、買い控えが懸念される。	
高級レストラン（スタッフ）		・夏の観光客は予想したほどの売上がなかった。来月からのオリンピック開催や、今夏の低単価を考えると、秋から客が増えるとは予想しにくい。	
	旅行代理店（従業員）	・景気回復と言われているが受注状況は回復していない。	
悪くなる	一般小売店〔土産〕（店員）	・九州・沖縄方面のツアーが順調で、北海道方面の観光の需要が今年はかなり低い比率になってきていることから、団体客層を中心に九州・沖縄方面に観光客が流れ、来客数は停滞する。	

企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・景気の改善に伴い、家具などの耐久消費財にも動きがはじまっている。
		輸送業（営業担当）	・農作物の生育状況が良好であることから好収穫が期待できる。東南アジア向けの紙パルプ製品も予定どおり増量見込みである。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・受注状況が前年比プラスで推移し、今後ブレーキがかかる要素も見当たらない。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・十勝地区の大規模畑作農家は、天候に恵まれじゃがいも・ビート・豆類ともに豊作が見込まれる。これらの作柄が地域に与える影響は大きく、農機具メーカー・農産物倉庫・物流・食品加工業などで活況が見込まれる。
変わらない		建設業（経営者）	・手持ち工事量はおおむね現状で推移する。
		司法書士	・金融機関の提携・統合が進められていて、企業に対する貸付サービスが低下してきている。企業にとっても金融機関選択の幅が狭められる恐れがあり、貸しはがしの心配から事業拡大の意欲を失っている。
	やや悪くなる	輸送業（支店長）	・7月は第一四半期同様、好調に荷動きしていた貨物も、一部だぶつき気味となり、8月以降は調整局面に入る。道内の需要が好転しない中での入荷増であり、第二四半期以降、荷動きからみると大変きつい状況になる。鉄鋼業界、コンクリート製品の業界等も、本州物件を取り始めているが、大きくプラス要素になるとは考えられない。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・全体的には事業量も増えると思うが、公共工事・民間工事、いずれも息切れが心配される。	
悪くなる	-	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・本州方面の製造業の活況で求人数の増加傾向が続いている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・基幹産業である農業の生産額に明るさが見え、第一次、第二次加工での求人が増えてくると予測される。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・建設・運輸に続いて小売業も伸び始めており、求人に関する前向きな傾向が続く。
		職業安定所（職員）	・水産加工業、卸・小売業からの求人が増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・業種により求人数の偏りがある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・農業は豊作が見込まれ酪農も好調であるが、土建業は厳しい状況である。また、観光客の入込が不振である。
	職業安定所（職員）	・新規求人数は増加しているが、就業地が管外の請負求人の増加によるものであり、管内の雇用環境は引き続き厳しい状況にある。	
やや悪くなる	-	-	-
悪くなる	-	-	-